

教科の概要（芸術Ⅰ：音楽）

I. 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

II. 観点別評価の規準と基準

		規 準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	十分満足できる			
	<p>【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わり及び音楽の多様性などについて理解し、適切に説明できる。</p> <p>【技能】 創意工夫などを活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 【概ね達成率 80%以上】</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを明確にもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 【概ね達成率 80%以上】</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【概ね達成率 80%以上】</p> <p>※ 主体的:未知なることに自ら取り組む態度 ※ 自主的:与えられたことに積極的に取り組む態度</p>	
B	おおむね満足できる			
	<p>【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わり及び音楽の多様性などについて理解している。</p> <p>【技能】 音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 【概ね達成率 35%以上】</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 【概ね達成率 35%以上】</p>	<p>自主的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【概ね達成率 35%以上】</p>	
C	努力を要する			
	<p>【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わりについて理解している。</p> <p>【技能】 表現するために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現したり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>自主的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	

(別表4)

III. 授業の概要

教科	芸術 I	科目	音楽	単位数	2	年次	1
使用教科書	MOUSA1 (出版社名 教育芸術社)						
副教材等							

1. 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 3観点の評価規準

規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わり及び音楽の多様性などについて理解し、 適切に説明できる。 【技能】 創意工夫などを活かした音楽表現 をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを 明確 にもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的 に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
上記の規準に対して、「十分満足できる」場合はA、「おおむね満足できる」場合はB、「努力を要する」場合はCとして評価する		
評 価 方 法		
ワークシート、実技テスト、創作作品、定期テスト 等	ワークシート、実技テスト、創作作品、定期テスト 等	振り返りシート、プレゼンテーションや主体的な取り組み 等

3. 学習内容

1 学 期	【表現】 ヴァイオリン、歌唱、創作 【鑑賞】 オーケストラの楽器 【共通】 音名、譜表、コード
2 学 期	【表現】 ヴォイスアンサンブル、三線、創作 【鑑賞】 Jazz、ポピュラー音楽 【共通】 音階
3 学 期	【表現】 ボディーパーカッション、歌唱、創作 等 【鑑賞】 ミュージカル 【共通】 年間のまとめ

4. 学習方法

【進め方】 基本的に表現活動（歌唱・器楽・創作）と鑑賞活動を並行して進める 【授業で理解しておいてほしいこと】 ①音楽の授業では、一人ひとりの興味・関心・意欲がとても大切。積極的に知覚・感受してほしい。 ②「自分たちで考えて学ぶ」という場面が多くある。その時には積極的に取り組み、「探求心」をもって自分の音楽的視野を広げてほしい。 ③発表が中心となるので、自己と正面から向き合う計画性が求められる。着実な準備をしてほしい。(提出物も同様です) 【題材ごとに以下を評価のもととする】 ・ワークシート、レポート、ノート等の提出(べ切厳守) ・独唱、アンサンブルなどの実技テスト(もともと出来る人が良い評価ではない。常に努力することが大切。) ・ペーパーテスト(1・3学期は、授業内、2学期は学年末テスト) ・その他学習態度等総合的評価(自己評価シートも含める)

教科の概要（芸術Ⅰ：美術）

Ⅳ. 目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

Ⅱ. 観点別評価の規準と基準

		規 準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	十分満足できる			
	【知識】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、適切に説明できる。 【技能】 創意工夫などを活かした美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 【概ね達成率 80%以上】	造形的なよさや美しさ、表現の明確な意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 【概ね達成率 80%以上】	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【概ね達成率 80%以上】 ※ 主体的: 未知なることに自ら取り組む態度 ※ 自主的: 与えられたことに積極的に取り組む態度	
B	おおむね満足できる			
	【知識】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 【技術】 美術表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 【概ね達成率 35%以上】	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 【概ね達成率 35%以上】	自主的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【概ね達成率 35%以上】	
C	努力を要する			
	【知識】 対象や事象を捉える視点について理解している。 【技術】 表現するために必要な技能を身に付け、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったりしている。	自主的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

(別表4)

V. 授業の概要

教科	美術	科目	美術 I	単位数	2	年次	1
使用教科書	高校生の美術 (日本文教出版)						
副教材等							

5. 学習の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

6. 3 観点の評価規準

規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、適切に説明できる。 【技能】 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の 明確な 意図と創造的な工夫、美術の働 などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的・協働的 に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
上記の規準に対して、「十分満足できる」場合は A、「おおむね満足できる」場合は B、「努力を要する」場合は C として評価する		
評 価 方 法		
提出作品、定期テスト 等	提出作品、定期テスト 等	主体的な取り組み 等

7. 学習内容

1 学期	身近な素材で作る 写真で表す 私の見つけた風景 美の秩序
2 学期	立体表現の魅力 人物を描く (ハーフ自画像) 身近なものを描く
3 学期	デザインの世界 美の秩序 鑑賞

8. 学習方法

アダン葉による馬ぐあーの作成 スマートフォンによる風景撮影 アクリルによる風景画の作成 マンダラの着彩 粘土による「飾って楽しいコーヒーカップ」の作成 写真を使った鉛筆デッサン 運動靴のデッサン オリジナルお面の作成 禪タングルの作成 ポートフォリオの作成

教科の概要（芸術Ⅰ：書道）

VI. 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

VII. 観点別評価の規準と基準

		規 準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	十分満足できる			
	<p>【知識】 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について書の創造的活動を通して理解を深め、適切に説明できる。</p> <p>【技能】 書の伝統に基づき、作品を効果的・創意的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 【概ね達成率 80%以上】</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、明確な意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。 【概ね達成率 80%以上】</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【概ね達成率 80%以上】</p> <p>※ 主体的:未知なることに自ら取り組む態度 ※ 自主的:与えられたことに積極的に取り組む態度</p>	
B	おおむね満足できる			
	<p>【知識】 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について書の創造的活動を通して理解を深めている。</p> <p>【技能】 書の伝統に基づき、作品を効果的・創意的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 【概ね達成率 35%以上】</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。 【概ね達成率 35%以上】</p>	<p>自主的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【概ね達成率 35%以上】</p>	
C	努力を要する			
	<p>【知識】 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について書の創造的活動を通して理解している。</p> <p>【技能】 表現するために必要な技能を身に付け、表している。</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わっている。</p>	<p>自主的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	

(別表4)

VIII. 授業の概要

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	年次	1
使用教科書	書道 I (教育出版)						
副教材等	高校硬筆の練習 (教育出版)						

1. 学習の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 3 観点の評価規準

規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について書の創造的活動を通して理解を深め、適切に説明できる。 【技能】 書の伝統に基づき、作品を効果的・創意的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、明確な意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
上記の規準に対して、「十分満足できる」場合は A、「おおむね満足できる」場合は B、「努力を要する」場合は C として評価する		
評 価 方 法		
硬筆ノート、提出作品、定期テスト 等	提出作品、定期テスト、硬筆ノート 等	主体的な取り組み 等

3. 学習内容

1 学期	①楷書の古典臨書。 ②創作作品を作成する。 ③様々な作品の鑑賞。
2 学期	①行書・草書の古典臨書。 ②公募展作品を仕上げ出品をする。 ③校内展示に向けての創作を行う。
3 学期	①隸書の古典臨書。 ②篆刻等創作作品を仕上げる。 ③独自の表現方法で作品を創作。

4. 学習方法

【授業進行方法】 書道の内容は、「表現」と「鑑賞」に分かれ、行程を理解した上で創作活動に入る。 【授業で理解してほしいこと】 ①これまでの書とは違い、古典書の技術向上を目指し、技法を習得してほしい。 ②練習等では添削を行い、清書作品へと繋げる。 ③コンクール等への出品を行うため、毎課題が出品作品であることを意識して取り組んでほしい。 【評価方法】 ①毎課題の作品提出。硬筆ノートや公募展作品も含めます。 ②定期考査(2 学期期末考査を実施) ③学習態度:書道経験者が必ず高評価というわけではなく、努力する姿勢も総合的に判断していく。

(別表 4)